

地域と農政を結ぶ

Vol.
31

令和7年4月

- 令和7年度地方参事官室担当者をご紹介します
- トピックス
「西浦みかん」産地の維持・発展に向けて
挑戦者求む!「みどり戦略学生チャレンジ」
HPに「地域のデータ」コーナーを新設しました
県内の学校へ出前授業を実施しました
- 生産現場での取組事例紹介
配管工事技術を農業に～持続可能な社会を目指して～
- お茶NEWS
富士山の麓からのお茶革命
「香り緑茶」で茶の新たな需要を
静岡県拠点の「茶」振興への取組
- 輸出で静岡から世界へ
- 統計の部屋
令和5年市町村別農業産出額(推計)
- しぞ〜かの特産品 水かけ菜(御殿場市・小山町)

関東農政局 静岡県拠点 地方参事官室

農林水産省

令和7年度 地方参事官室担当者をご紹介します

1年間よろしくお願いいたします！



副地方参事官 間山 誠治
地方参事官 河合 亮子
総括農政推進官 小泉 元志



企画担当

みなさんのところへお伺いします。

ぜひ、農政に関する意見・要望・質問をお聞かせください。



分析担当



中部・西部地域担当



東部・伊豆地域担当

➤ 表紙 カーネーション（河津町）

県内有数のカーネーション産地である河津町。「かわづカーネーション見本園」では、274品種、約12,500株のカーネーションを見学することができます。園内には、河津町で実際に出荷されている品種のほか、種苗会社から提供を受けた新品種や試験品種も栽培されています。見本園は、新品種の特性や栽培技術の情報を生産者へ提供するためにつくられ、町内のカーネーション栽培技術向上に寄与しています。皆さまもぜひ、色とりどりに咲き誇る河津町の春の風物詩をお楽しみください。（本年は5月11日まで開園中です。）



かわづカーネーション見本園（河津町）

「西浦みかん」産地の維持・発展に向けて

ドローンで農薬散布を省力化

JAふじ伊豆では、「西浦みかん」の担い手の減少や生産者の高齢化に対応するため、静岡県、沼津市、JA全農、JA静岡経済連、KDDIと連携して、約13.5aの土地でドローンを使用した農薬散布の実証実験を慣行栽培区域と実証実験区域に分け令和6年5月から行っています。

実証実験では、農薬の付着状況を確認した結果、ドローンから近い樹冠の上部では薬剤の付着状況は比較的良好だったものの、樹冠の内部や枝が重なる部分には付着が不十分であることが分かりました。また、令和6年は黒点病が多発し、防除効果に課題が残りました。このため、ドローン防除に適した樹形にするため、木を真上から見たとき3方向にスリットを入れた「縦開窓樹形（たてかいそうじゅけい）」という剪定方法を導入することとしました。これによって、樹冠の下部や内部まで十分に薬剤が付着することが期待されます。

さらには、間伐を行い試験園地の整備を行うことも検討されています。今後は、令和8年度までに新たな剪定方法の効果も含めて検証を行い、マニュアル化することを目指しています。JAの担当者の方からはスマート農業技術の導入について、「傾斜の樹園地10aを農薬散布する場合、手作業では約3時間かかるが、ドローンでは約10分で作業が終わった。非常に作業の省力化ができる。産地の生産能力維持にも期待できる。」とのお話があり、スマート農業技術への期待が高まっています。



ドローンによる防除の様子



縦開窓樹形の図
(山口県柑橘振興センター開発)



縦開窓樹形に剪定前（左）、剪定後（右）



基盤整備前の道路の様子（平成23年頃）
画像提供：静岡県東部農林事務所



基盤整備後の道路の様子（令和7年3月時点）
車がラクラクすれ違える！道幅は5.5m。

基盤整備で作業を効率化

西浦地区では、特産品種の「寿太郎みかん」が有名ですが、急傾斜園地で農道が狭く、作業効率の低さが長年の課題でした。西浦みかん土地改良区では、西浦地区のみかん産地の維持・発展のため、平成23年度から令和11年度までの工期で、西浦地域全体の農道と用水施設の整備に取り組んでおり、現在整備計画の60%程度が完了しています。

基盤整備では、約2mの農道を約5.5mのアスファルト舗装道路に拡張したことで車がすれ違えるようになり、作業効率が大幅に改善されています。農地によっては拡張道路に隣接したことで利便性が向上し、耕作放棄地となっていた一部の圃場も耕作されるようになりました。また、農道整備残土を傾斜地に投入することで、農地の平坦化も進められ、生産者の営農意欲向上に貢献しています。

さらに、基本作業（剪定等）の徹底や貯蔵技術の改善によって、「寿太郎みかん」は首都圏で高価格で取引されるようになりました。また、冷風貯蔵庫を利用して高品質の寿太郎みかんを貯蔵した「寿太郎プレミアムゴールド」等の高付加価値化商品を開発したほか、令和2年11月には、「西浦みかん寿太郎」が「地理的表示（GI）保護制度」に登録されました。

当取組を行った西浦みかん土地改良区は、令和6年度関東農政局土地改良事業地区等営農推進功労者表彰において、関東農政局長賞を受賞しました。

挑戦者求む！「みどり戦略学生チャレンジ」

将来を担う若者たちが、
みどりの取組に挑戦！

農林水産省では、みどりの食料システム戦略の実現に向けて、将来を担う若い世代の環境に配慮した取組を促すため、大学生や高校生等による環境負荷低減に資する取組を公募・表彰する「みどり戦略学生チャレンジ」を実施しています。

令和6年度大会では、全国から402件の応募があり、県内からも3グループにご応募いただきました。県内エントリー校の取組については、詳細に関東農政局HPに掲載していますので、ぜひご覧ください！

「みどり戦略学生チャレンジ」は今年度も開催予定です。県内学生のみならず、ご応募お待ちしております！

【農林水産省HP】



◀令和7年度大会
へのご応募はこちら！

【関東農政局HP】



◀令和6年度エ
ントリー校の取組
についてはこちら！

県内エントリー校の取組内容 /

静岡県立田方農業高等学校
「おんせん野菜で伊豆を元気に！」

全国有数の温泉地である伊豆で、新たな観光資源を目指し、養液に温泉を利用した水耕栽培の生育状況を検証。

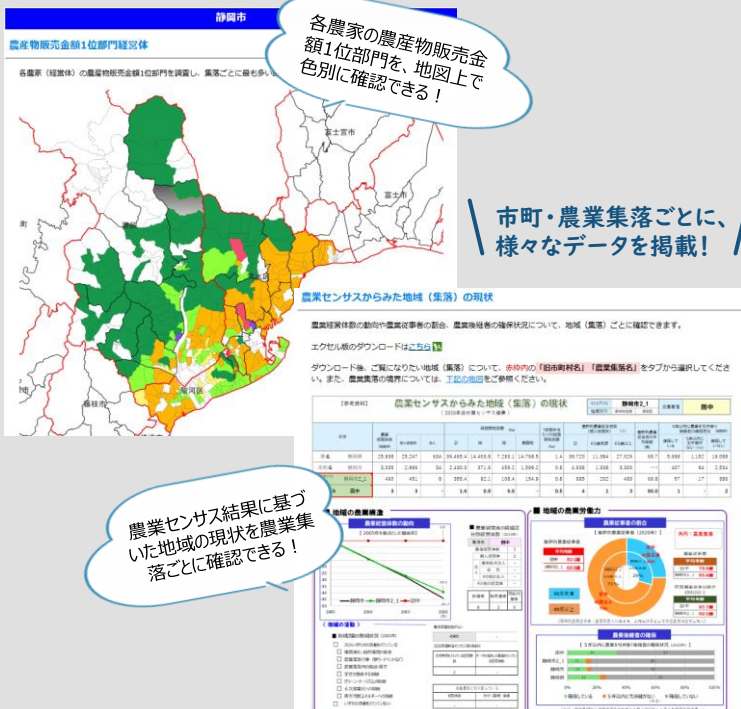
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部
「養鶏飼料において低利用の柑橘類を有効活用する」

飼料自給率の向上と農業廃棄物の有効活用を目指し、飼料にみかんの陳皮や規格外の柚子を用いた場合の養鶏に及ぼす影響を検証。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 田中杏依さん
「磐田市における有機農業の可能性」

磐田市における有機農業の取組拡大のため、市内の生産者へ聞き取り調査を行い、経営や販路の面から、有機転換にかかる課題と改善策を検討。

HPに「地域のデータ」コーナーを新設しました



静岡県拠点ではこのたび、HPに「地域のデータ」コーナーを新設しました。当コーナーでは、県内農業の現状を市や町、農業集落別に見える化したグラフや地図のほか、農林水産省で作成しているデータの分析サイトをまとめた便利なリンク集も掲載しております。今後も随時、掲載データを充実させていただきますので、ぜひご活用ください！

また、「この作物のこんなグラフがあったらいいな…」や「あの地域のあんな地図があったら便利だな…」など、地域農業に関して、ご相談・ご要望・ご質問などがありましたら、お気軽にご相談ください。

▼【静岡県拠点HP】
「地域のデータ」コーナーはこちら！



県内の学校へ出前授業を実施しました

静岡県拠点では、令和6年度取組として、県内の小・中学校と大学へ出前授業を行いました。

掛川市立和田岡小学校、富士市立富士川第二小中一貫校、富士市立鷹岡中学校では、「日本の食料と農業」をテーマに授業を行いました。「普段私たちが食べているものはどの国で作られているのかな？」という身近な問いから、

- 日本の食料自給率の現状とは？
- 輸入に依存せずに国内で食料を生産していくことの重要性
- 農業の生産現場が直面する課題
- 課題を解決するために日本の農業がチャレンジしていることについて、クイズや動画を交えながらお話ししました。

授業を受けた児童・生徒のみなさんからは、「国産よりも外国から輸入したものの方が多いことに驚いた」「日本の農業が元気になるように、できるだけ国産の食料を買いたいと思った」「フードロスをしないために食べものを残さないようにしたいと思った」「農業をサポートするドローンがあるのを知って驚いた」などの感想がありました。

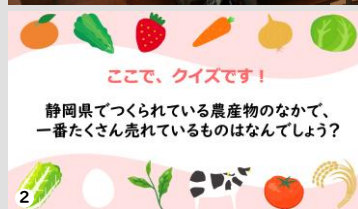
静岡県立農林環境専門職大学では、「これからの農業」をテーマに講義を行いました。

- 地球温暖化の進行を抑制するために農業分野はどんなことに取り組むべきなのか？
- ほとんど輸入に依存している肥料を国内で賄っていくには？
- 農業者数が減るなか今後も食料の安定供給を維持していくためには？

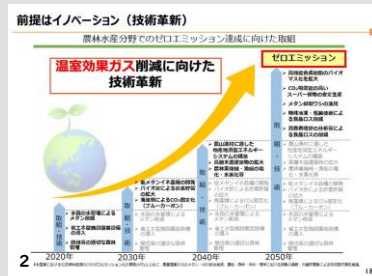
など、これからの農業が直面する問題とその解決策について、学生と一緒に考えながらお話ししました。

授業を受けた学生のみなさんからは、農福連携におけるスマート農業の活用方法などについて質問があがり、スマート農業への関心の高さが感じられました。

出前授業を通して、日本の農業についてみなさんと一緒に楽しく考えることができ、私たち職員にとっても大変貴重な経験となりました。ご依頼いただいた学校のみなさま、大変ありがとうございました！



1. 元気に質問に答える児童たち（掛川市立和田岡小学校）
2. クイズを交えながら授業を実施。みなさんとも農業に詳しく驚きました！（小学校用資料の抜粋）
3. 生徒間で意見交換を行う時間を設け、みなさんの貴重なご意見を聞くことができました（富士市立富士川第二小中一貫校）
4. 技術・家庭科授業の一環として、食料自給率を中心に解説（富士市立鷹岡中学校）



1. 静岡県立農林環境専門職大学の1年生を対象に授業を実施
2. 地球温暖化が進むなかで、これからの農業はどうあるべきかについて、お話ししました（大学用資料の抜粋）

農林水産省HPでは、日本の農林水産業についてクイズや絵本、動画などから学べる「こどもページ」を開設しています。また、疑問点や質問がありましたら「こどもそうだん」窓口もありますのでぜひご利用ください！



知ろう！ 学ぼう！
こども農林水産省

▼【農林水産省HP】
「こどもページ」はこちら



▼【農林水産省HP】
「こどもそうだん」はこちら



愛管株式会社（浜松市）

配管工事技術を 農業 に ～持続可能な社会を目指して～

昭和58年創業の愛管株式会社は、浜松市に本社を構え、施設の配管工事や空調設備などライフラインの整備を行う管工事業を基盤とする会社です。管工事業のほか、農業やレストラン事業、保育事業など様々な事業を展開し、SDGsへの取組にも力を入れています。今回、愛管株式会社取材し、会社の多種多様な事業内容やSDGsに向けたチャレンジなどについて、お話を聞きました！



祖父から受け継いだ農業を事業に

現社長が、代々受け継がれた農業を新しい事業として立ち上げたいと考えたことから、5年前に認定農業者となり、農業部門を設立しました。会社敷地内には約30aの農園があり、減農薬栽培を中心としたブルーベリーやナスなど多品種少量生産を行っています。自社農園で採れた農産物は、会社が経営するレストランや保育園で使用しているほか、近隣のファーマーズマーケットなどへ出荷しています。

愛管株式会社では、自社農園の運営だけでなく、会社の基盤である管工事業技術を活用したスマート農業技術の実証や導入支援も行っています。

ハウス内で栽培されているエディブルフラワーといちご



脱炭素冷暖房システムを利用したハウス



自社農園の畑と果樹園

「脱炭素冷暖房システム」で省エネ栽培

令和5年2月、地熱利用の脱炭素冷暖房システムを使ったハウス栽培の実証を開始しました。元倉庫を農業用ハウスに改造し、持続可能な農業の実現を目指した新たな取組として、当プロジェクトを立ち上げました。

このプロジェクトには、イノベックス株式会社が開発した地中熱と地下水熱を組み合わせた独自技術「ヒートクラスター方式」を採用した空調設備が取り入れられています。ハウスの外には、地下40mほどまで掘られた穴に水が通る管が設置されています。地中の温度は1年を通して15～17℃程度で安定しているため、冬には温かい水が、夏には冷たい水が戻ってきて冷暖房システムをアシストする仕組みとなっています。一般的なヒートポンプは、空気を電気だけで温めますが、このシステムは電気に加えて地中の熱を利用して温めるため、より省エネに貢献することができます。

今後は、生産者へしっかりとデータを提示できるよう実証を進めるとともに、このハウスをモデルとして実際に見に来てもらうことで、全国へ当システムを普及していきたいと考えています。

遊休施設を農業施設にリニューアル

令和6年1月には、デジタルツイン技術※を利用して、空き倉庫や空き家などの遊休施設を農業施設として改装し、併せて栽培支援を提供するサービス「アグリビムコネクト」を開始しました。

気候に左右されずに周年栽培が可能になるとともに、既存の家屋や資材などを活用することで設備費用のコスト削減に繋がります。

現在栽培可能な品目は、エディブルフラワーとマイクロハーブのみですが、今後はさらに実証を重ねて、葉物野菜を中心に高単価な作物を栽培できると考えています。

※現実世界から収集したさまざまなデータを基に、仮想空間上に現実世界とそっくりな世界を再現する技術。



アグリビムコネクトによって施工された施設内で栽培されるエディブルフラワーとマイクロハーブ



空間を3Dスキャンし（上）、3Dで設備図面を作成（下）

畑が見えるレストラン

レストラン事業としては、現在6ブランド7拠点を展開しています。なかでも、本社敷地内にある「Café & Restaurant LENRI」は、会社の創業者が元タスローライフに憧れを持っていたことから、くつろぎながら仕事ができるような自身の理想の空間として、創業者自ら構想し開業しました。

レストランで提供する料理には、自社農園で採れたエディブルフラワーやいちご、西洋野菜などを使用しています。料理に使われている食材の畑を実際に目の前にしながら、お客様に料理を楽しんでいただいています。

数年前には「フードラボ」というプロジェクトも開始し、地域の生産者が作った食材と当レストランの技術を掛け合わせた商品開発に取り組んでいます。これまで、大きくなりすぎたベビーリーフを使ったパスタソース・お菓子やB級品の海老芋を使ったお菓子を開発しました。「フードラボ」を通して、地域の生産者にとって新たな収入源が生まれればと思っています。

「Café & Restaurant LENRI」町田 シェフ



自社農園で採れた食材を使った料理



レストランの席からは自社農園が望める

保育園「れんりの子」富田 園長



子どもたちが畑で育てた野菜は保護者や社員へ販売



園内の畑。看板の文字は子どもたちのお手製。

農業から学べること

本社敷地内には、会社が経営する保育園「れんりの子」もあります。園内には様々な作物が育つ畑のほか、ヒガンバナやどんぐりの木など四季を感じさせる植物が植えられ、豊かな自然のなかで子どもたちが、のびのびと過ごしています。

園では「食農保育」として、農業に関わる様々な取組を実施しています。園内の畑で野菜を育てるほか、育てた大豆を使って味噌づくりをしたり、肥料会社の協力を得て肥料づくりをしたりしています。日々の体験のなかで子どもたちは、年下の子に野菜の収穫の仕方を教えたり、畑に鳥の糞が落ちていたら鳥よけを作ったり、野菜についての青虫を本で調べて育てたりなど、自分で考えて行動するという学びをどんどん深めています。

単発的な体験ではなく、毎日の暮らしの中に農業を取り入れることで、想像以上に子どもたちの学びが広がりました。さらには子どもを通して家庭内へも食と農に関する良い影響を循環させていければと思います。



今後は、どんなことに取り組んでいきたいですか？

農業部門としては、今後は農園の栽培面積を増やすとともに、担い手の減少などで地域農業が衰退していくなかで、当社のスマート農業技術を活用してもらったり、当社のレストランを出荷先として活用してもらったりすることで、地域農業の活性化に貢献していきたいです。また、会社全体としては、①きちんと利益を生み出せる運営を行うこと、②部門間で円滑な連携を図ること、③地域の方々と協力していくことの3点を大切にしながら、今後も持続可能な社会の維持を目指した取組を行ってまいります。

取材にご協力いただいた
営業推進室 八巻さん（左）、農業課 宮下さん（右）





富士山の麓からのお茶革命

Msカンパニー合同会社（富士市）

Msカンパニー合同会社代表の杉山さんと専務の望月さんは同級生で、親戚の間柄です。以前は別々に茶の摘採、荒茶加工を行っていましたが、一つの茶工場で加工した方が効率的だと意見が一致しました。そして2021年4月に合同会社を立ち上げ、お互いに得意分野を担当しつつ、共同経営をするようになりました。今では輸出用に有機茶栽培にも取り組んでいます。

有機茶栽培については、今から4年前、静岡市内の茶商の会長から、「有機栽培に適した品種を栽培しているのだから、有機栽培に転換して、輸出に取り組んだらどうか」とのアドバイスを受けたことがきっかけで、今後の経営方針を熟慮し取り組み始めました。

1年目は、害虫の発生により収穫量は皆無に等しく大変苦労しました。そこで2年目は、害虫対策として施肥管理を工夫するほか、ウンカ対策としてあえて食害させる葉を残すなどの対策をしました。その結果、慣行栽培時の7割くらいの収穫量になったことに加え、他の茶園に比べ転換茶園に鳥が多く飛来するなど生態系にも変化が見られるようになりました。徐々に病虫害対策の効果が表れ、去年は慣行栽培時とほぼ同じ収穫量となりました。

代表の杉山さんは、「今後も、いつか世界に『これが富士山の麓で作ったMsカンパニーのお茶だ』ということを知ってもらえるよう、日々有機茶栽培に取り組んでいきたいです」と話しています。



Msカンパニー合同会社
望月 専務（左）、杉山 代表（右）



今後は、園内すべてを有機栽培に転換していく予定。



株式会社田子の月とのコラボ商品「黒富士」



また、Msカンパニーでは、県の「令和6年度ChaOIプロジェクト推進事業」を活用して、富士市内に本社を構える菓子メーカー株式会社田子の月とコラボし、新商品「黒富士」を開発しました。当商品には、Msカンパニーで栽培された茶葉（抹茶）が使われ、5月から各店舗で販売予定です。ひと口ごとに広がる抹茶の風味を、みなさんもぜひお試しください。



揺青機で、茶の生葉を攪拌し適度な物理ストレスを与えます。
画像提供：静岡県農林技術研究所茶業研究センター



日本茶AWARD2024プラチナ賞受賞「花こち」
画像提供：勝間田開拓茶農協

「香り緑茶」で茶の新たな需要を

勝間田開拓茶農業協同組合（牧之原市）

香り緑茶をご存じでしょうか？

香り緑茶とは、摘採した生葉を「香気発揚処理（こうきはつようしり）※」した後に、既存の茶製造ラインで製茶して作られる緑茶でほんのりと甘い花のような香りが特徴です。

平成28年、静岡県農林技術研究所茶業研究センターが香り緑茶の大量生産技術を開発しました。勝間田開拓茶農協では、香り緑茶の生産に取り組むため、「みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業」に参加し、揺青機等（香気発揚処理装置）の設備を導入し、同センターが開発した技術を活用した茶の生産を始めました。

香り緑茶で、茶の新たな需要の喚起を目指しており、一般消費者への認知度向上を図るため、イベントやオンラインお茶会で販売してきました。

今般、日本茶AWARD2024でプラチナ賞、2025年 O-CHAパイオニア賞でCHALLENGE賞を受賞したため、今後は販路拡大し、将来的には輸出することも検討しています。

※「加温処理」「攪拌処理」「低温静置」の3つの処理を行うことで、茶葉自身の香りを高めること。

静岡県拠点の「茶」振興への取組

会議の開催

茶業におけるスマート農業技術の活用促進を図るため、静岡県拠点を中心となり、関東農政局と東海農政局が合同で1月21日に「スマート農業技術による茶業の未来会議」を開催しました。両農政局管内の茶の主産地である8県と農研機構に声掛けし、Web参加を含めて48名の参加者がありました。

参加県に対しては、「欲しい技術」「茶園管理機のロボット化の可能性」「ドローンの活用」等について事前アンケートを実施し、その結果を踏まえて、当日の会議では農研機構の専門家と技術的な面も含めた意見交換を行いました。

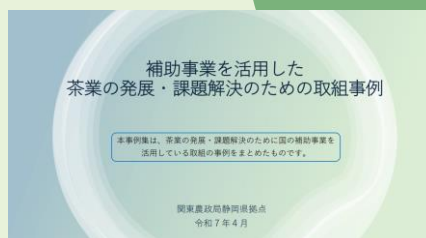
参加した県からは、「他県の取組状況等を聞くことが出来る貴重な機会だった」「近隣県との問題意識の共有ができた」などの声が寄せられました。今後も地域の要望を踏まえ、現場に情報を届ける取組を進めていきます。

お茶事例集の作成

また、静岡県拠点では茶業関係者を訪問し、国の補助事業を活用している取組をとりまとめた事例集を作成しました。当事例集は、静岡県拠点HPに掲載していますので、ぜひご覧ください。



「スマート農業技術による茶業の未来会議」風景



お茶事例集。茶業の発展・課題解決に向け、国の補助事業を活用している取組をまとめています。



【静岡県拠点HP】

◀お茶事例集の詳細はこちら

輸出 で静岡から世界へ!

農林水産省では、農林水産物・食品の輸出に取り組む事業者のうち、特に優れた事業者に対して表彰を行っています。ここでは、「令和6年度 輸出に取り組む優良事業者表彰」で入賞された県内事業者の取組をご紹介します。



農林水産大臣賞 株式会社カクニ茶藤（静岡市）



茶葉を碾茶炉で乾燥させ、碾茶に加工



最終製品は直接輸出で海外へ

画像提供：株式会社カクニ茶藤

輸出に取り組んだ背景

2011年の東日本大震災・放射能被害による深刻な経営危機から、輸出事業への参入を決意し、戦略的に輸出を進めました。現在は全売上の半数以上が輸出で、さらに、ここ4年で売上は倍増。輸出アイテムの9割以上は有機栽培茶となっています。

取組内容

顧客ニーズに応えるため、従来の分業型ではなく新たなサプライチェーンの構築に注力しています。有機茶生産から加工、販売まで一貫した直接生産販売体制を構築し、安定供給を可能にしました。有機JAS認証、FSSC22000など数々の認証を取得。全国の茶農家や生産地と取引して、慣行栽培から有機への転換も身を切って支援しています。

今後の展望

「生産者のwinなくして商のwinなし」との思いから、生産者とは一蓮托生の信頼関係で挑戦を続けており、明確な買い取り価格の提示により生産者は栽培圃場拡大に意欲的に取り組んでいます。2024年からは自らも認定農業者となり、今後も強固な農業基盤づくりに力を注いでいきます。



輸出・国際局長賞 丸啓鯉節株式会社（御前崎市）

輸出用の削り節



タイ国内を走る会社のトラック



タイでの鯉加工（初切り）の様子

画像提供：丸啓鯉節株式会社

輸出に取り組んだ背景

食生活の変化に伴い、日本の鯉節市場が縮小していたことから輸出を検討し、2010年から輸出を開始しました。

取組内容

自社鯉節製品と他社の抹茶製品等を混載することで、輸送コストを低減しています。また、混載することで日本食材のラインナップ拡充につながり、輸出先での販売促進につながっています。

輸出に取り組むにあたっては、海外の取引で必要とされるハラル認証やEU-HACCPなどを取得したほか、削り方や梱包の高い技術を活用し、風味や外観の良い高品質な製品を提供することで、安価な他国製品と差別化を図りました。また、商社を介さずに直接輸出することで輸出先のアフターフォローやニーズ収集を可能にしています。

今後の展望

海外でまだなじみのない「katsuo-bushi」の知名度向上を図るため、料理教室や教育機関を通じての食育活動を通じ、鯉節という日本の誇る伝統食品のローカライズを進めたいです。また、鯉節業界では珍しいハラル認証を取得すると同時に、混載商品の茶メーカーもハラル認証を取得し、相乗効果を狙いイスラム圏への浸透を図っていきたいです。抹茶以外にも、だしパックなど鯉節関連商品を拡大し、日本食材の輸出拡大を進めていきたいです。



統計の部屋

「令和5年市町村別農業産出額（推計）」

（農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果）

農林水産省では、令和7年3月、「令和5年市町村別農業産出額（推計）」を公表しました。

この統計結果は、生産農業所得統計における都道府県別農業産出額を農林業センサス及び作物統計を用いて按分し、市町村別の農業産出額（推計）として毎年提供するものです。

静岡県内市町別では、浜松市が545.6億円（県計に占める割合24.3%）で最も多く、全国第6位となっています。

また、鶏卵については富士宮市が186.5億円で全国第1位となっています。

静岡県内市町別に、上位2位までの部門を整理すると以下のとおりとなります。

単位：1,000万円

市町	農業 産出額	1位部門		2位部門	
		部門	産出額	部門	産出額
静岡市	1,679	野菜	671	果実	463
浜松市	5,456	果実	1,797	野菜	1,314
沼津市	655	果実	258	野菜	135
熱海市	22	果実	17	野菜	4
三島市	496	野菜	278	豚	81
富士宮市	2,987	鶏卵	1,865	生乳	466
伊東市	112	果実	40	その他 畜産物	32
島田市	716	茶（生葉）	206	荒茶	178
富士市	769	花き	x	野菜	137
磐田市	931	野菜	438	米	232
焼津市	389	野菜	155	米	104
掛川市	1,517	野菜	435	鶏卵	300
藤枝市	450	野菜	137	果実	87
御殿場市	260	米	92	鶏卵	81
袋井市	797	野菜	325	米	163
下田市	35	その他 畜産物	16	野菜	10
裾野市	66	野菜	22	米	17
湖西市	950	豚	183	野菜	170

市町	農業 産出額	1位部門		2位部門	
		部門	産出額	部門	産出額
伊豆市	188	野菜	69	米	47
御前崎市	496	野菜	264	肉用牛	47
菊川市	611	野菜	175	茶（生葉）	134
伊豆の国市	523	野菜	378	米	43
牧之原市	988	野菜	330	茶（生葉）	215
東伊豆町	86	野菜	37	果物	34
河津町	47	野菜	16	果実	16
南伊豆町	79	花き	49	野菜	21
松崎町	12	米	6	果実	5
西伊豆町	10	花き	x	鶏	3
函南町	275	野菜	105	生乳	80
清水町	17	野菜	11	米	5
長泉町	147	肉用牛	65	野菜	45
小山町	85	米	40	野菜	32
吉田町	114	野菜	63	米	31
川根本町	69	茶（生葉）	28	荒茶	24
森町	317	野菜	153	米	49

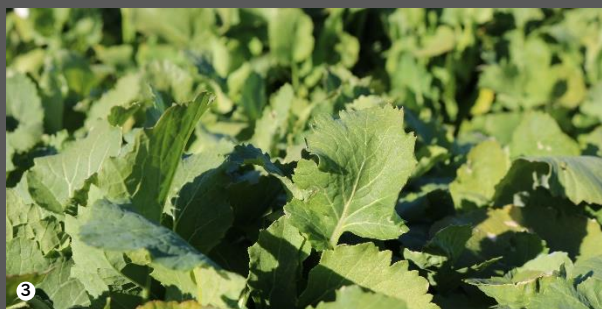
「x」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

◀ 農林水産省ホームページで、各種調査結果を公表しています。

分野（農家数、作付面積、生産量など）や品目（米、野菜、果樹、花き等、畜産など）、調査名一覧から各種調査結果を検索できます。



水かけ菜 (御殿場市・小山町)



明治時代から御殿場市や小山町に伝わる伝統野菜「水かけ菜」は、水田の裏作として、冬季に富士山の湧水を利用し栽培されます。「水を流す」ことを「水をかける」ということから、「水かけ菜」と呼ばれるようになったと言われています。一本一本丁寧に手摘みされた水かけ菜は、主に漬物として販売され、シャキシャキとした食感とほろ苦い味は、早春の特産物として多くの方々に親しまれています。

1. 富士山をバックに青々と育つ水かけ菜
2. 13℃ほどに保たれた湧水をかけ流し、水かけ菜を厳しい寒さから守る
3. 1月中旬から3月にかけて、一本一本手摘みで収穫
4. シャキシャキとした食感がやみつきな水かけ菜漬。ご飯との相性は◎



「しずおか食セレクション」に認定された水かけ菜漬は、1月中旬から3月下旬にかけて販売しています。生産者の方々が一生懸命守ってきた御殿場・小山伝統の味をぜひご賞味ください！

農林水産省HPでも「水かけ菜の漬物」をご紹介します！



関東農政局 静岡県拠点

〒420-8618 静岡市葵区東草深町7番18号

お問合せ

地方参事官室 054-246-6121
統計担当（経営・構造） 054-246-0612
統計担当（生産流通） 054-246-6123

アクセス

JR静岡駅より
徒歩：約25分（約1.8km）
バス：JR静岡駅北口10番のりば
県立総合病院方面「アイセル21」下車

